

ビオマス

NET:15kg ポリ袋詰

こんな場合にお薦めです

窒素過多の土壤

肥料持ちが良くない土壤

初期窒素を抑えた栽培方法

微生物・腐植が少ないやせた土壤



ビオマスの特性

- ビオマスは、微生物を増殖培養する際のエネルギー源・栄養源（餌）として各種の有機物質をバランス良く複合させ、土壤有用微生物の増殖促進資材として製品化したものです。
- ビオマスの有機質（リグニン・ヘミセルロース・セルロース・澱粉・糖質等）成分組成が破壊されているため分解されやすく、土壤微生物性の改良に最適です。
- ビオマスは微生物資材と併用すれば土壤の微生物性は速やかに改善され、その結果、物理性と化学性も改良されます。
- 有機物の分解に伴う窒素の取り込みと放出は、炭素率とリグニン含有量で決まります。ビオマスはバランス良くリグニンを含んでいます。

バイオマスの特徴

●有機成分の性状と組成

バイオマスの原料には、有機成分（蛋白・糖類・セルロース・リグニンなど）の相互結合の壊れた有機質が複合されています。従って、微生物性を改善する土壌改良には最適な資材です。

バイオマスの有機性分組成（炭素率:25）

有機成分	適用
蛋白・糖・澱粉・脂質	細菌・酵母菌・糸状菌・放線菌
セルロース	細菌・糸状菌・放線菌
リグニン	担子菌（ヒトダケ・カラタケ）

●バイオマスの使用量（10a 当たり）

作物	使用方法	使用量
葉菜類	前作の収穫直後・土壌前面にすき込み施用する	5～10袋
根菜類	前作の収穫直後・土壌前面にすき込み施用する	5～10袋
果菜類	前作収穫直後・施用量の60%を前面に施用し残りの40%を作付け畝にすき込み施用する	10～20袋
果樹類	元肥時に根域土壌表面に施用し、軽くすき込む	10～20袋
茶類	2茶後または秋肥前に畝間施用し軽くすき込む	8～15袋

- 播種定植一週間前までに施用して下さい。
- 施用量は圃場条件などで加減して下さい。

●使用上の要点

土壌条件	適用
★多肥栽培土壌	バイオマスの使用量を多めにしたい
★化学肥料使用土壌	土壌の矯正を急ぐ場合には、微生物資材との併用が効果的
★塩類濃度の高い土壌	
★連作栽培土壌	微生物資材との併用が適切
★土壌病害多発土壌	バイオマスを併用した太陽熱消毒法の実施が効果的
★土壌線虫の高密度土壌	

注:詳しくは、発売元または特約店にお問い合わせ下さい。

コフナのホームページを開設いたしました。詳細はこちらで www.cofuna.jp

総発売元

 **ニチモウ株式会社**

〒140-0002

東京都品川区東品川2丁目2番20号（天王洲郵船ビル）

TEL:03-3458-4369 FAX:03-3458-4329

<http://www.nichimo.co.jp/> E-mail:info@cofuna.jp